

第4回定例会質問

視覚障がい者の安全を守るために 点字ブロックの増設、同行援護の拡充を求める



市は「東京都道路バリアフリー推進計画に基づきすすめています

私は「あいとびあくバス停までの点字ブロックを早急に」と求めました。

私は「あいとびあくバス停までの点字ブロックを早急に」と求めました。

視覚障がい者が、安全で安心して歩くためには、点字ブロックの増設やJIS規格に改修が必要と提案してきました。市は、3

年間、新規18か所、JIS規格に改修は44か所設置してきたことでした。

人は、目から8割の情報を得ると言われています。しかし、視覚障がいの方は、音による情報が主で、情報というのは文字情報に限らず、歩くのに必要な情報が得られません。移動、運動などが制限されてしまいます。これらを解決するためには、白杖や盲導犬による歩行訓練、誘導ブロックや音響信号機、同行援護制度などがあります。



日本共産党
よっちゃん通信
2022年1月号

す。計画改定期に要望を伝えるのが有効であると考えます」との答弁でした。

同行援護

同行援護は、視覚障がい者に移動の手助けをするだけでなく、移動に必要な代読や代筆などの情報の提供を行う重要なサービスです。しかし利用されている方は、108人中、25人ということでした。

私は「まだ限られた方しか利用されていない。視覚障がい者の方々に情報が届くよう、工夫すること」を求めました。

また、視覚障がい者団体から出されている「同行援護の利用時間の上限時間を増やすこと」「突発的な利用も対応ができるように」「ガイドヘルパーの研修、毎年開催を」と求めました。

市は、利用時間上限増については「必要に応じて柔軟に対応していきます」。突発の利用は「障がい状況に応じたアセスメントシートに該当した場合に限り利用できます。障がい福祉サービスとして実施することは難しい状況ですが、個別の相談に応じます」。ヘルパー研修は「サービ入利用に対するニーズが高まっている状況であることは承知しています。今後の利用者ニーズなど踏まえ、実施方法等と併せて検討します」と答えました。

第4回市議会質問

コロナ禍での子育て支援

就学援助制度＝「ひとしく教育を受ける権利」の拡充を求める



日本共産党
よっちゃん通信
2022.1/21. 199号

コロナ禍で子どもの貧困が深刻になるなか、教育にかかる費用が家計を圧迫しています。憲法や教育基本法などに「ひとしく教育を受ける権利」が明記されており、お金のことを心配しないで、安心して子どもたちが学校に通えるようにと、就学援助制度があります。

小中学生18～19%困窮層

狛江市の子どもの生活実態調査では、公共料金や家賃を支払えなかった、食料・衣類が買えなかった経験があるなど、小学5年生19%、中学2年生18%の世帯が生活困窮層です。

文科省が調査した学習費総額は、小学校32万1千円、中学校48万8千円もかかるとされています。

ところが、就学援助利用率は全都是以、小学15.3%、中学21.9%なのに、狛江では小学7.2%、中学11.0%と大変低い状況です。保護者の負担が大変重いなかで、家庭の事情によって学びの場に格差が生まれかねません。

私、宮坂良子は「就学援助は

ますます重要、もつと多くの家庭に利用してもらうためには、基準を広げること」を求めました。

今の就学援助の基準は、2012年の生活保護基準によるものです。市は昨年の基準に変更するとしています。私宮坂良子は、生活保護基準12年から20年にすると、どのくらい下がっているかを質問しました。

生活支援必要性、ふまえ検討

市は「12年16万2170円、20年14万8570円、率にしてマイナス8.39%となっています」と答弁。

私は「基準が8.39%もマイナスになっていることは、これまで共産党市議団が要望してきた1.2倍にするには、1.31倍以上になるとして、少なくとも1.31倍以上を検討してほしい」と要望しました。

市は「最新の生活保護基準を用いる方向で検討し、係数制度全体の中で現受給者の方に不利益にならないようにしていく。コロナ禍による生活支援の必要性を踏まえ、範囲の拡大についても財政当局と調整しながら検討していきたい」と答えました。

